

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「明日から私はこれを実践します」宣言

今年度、能代第一中学校の研究の重点に「UDの視点からの授業づくり」を掲げていることから、先日、話題提供をしました。研修会では、ある先生が自ら挙手をして発言したことが会場にこだまし、次から次へと先生方が主体的に自分の考えを発表し、面白いようにつながりました。積極的に研修に参加する姿に、互いを支え合い、高め合う「いい雰囲気」を感じました。最後に「明日から私はこれを実践します」宣言と題し、研修会の学びを笑顔で伝え合っていました。まるで授業をしているかのように楽しい研修会になりました。

【研修会の内容】

授業づくりのポイント（展開2）	授業づくりのポイント（終末2）	ワーキングメモリを意識した話し方
<p>2 多様な学習形態を用意する（授業が動く！）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉、ペア、グループで理解をそろえる、結び付ける共有化（学び合い・話し合い・伝え合い・協力し合う） ・グループ学習はねらいを焦点化して方向付ける（話し合いの進行やポイントを提示する）（一部の生徒ではなく、全員の考える・発言する時間を確保する） 発言の少ない生徒への配慮を忘れない ・ペア学習は落ち着きのない生徒に効果的 ・ペアを替えると学びの広がりや深まりが期待できる（節目節目で1分間トークを設けて学びをそろえる） 生徒の何気ないつぶやき、質問を取り上げる <p>多様な学び方で、そろえる・結び付ける</p>	<p>3 多感覚を活用して何となく分かった感をスッキリ感へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてを基に振り返って評価と結び付ける 共有化 ・分かったことを多様な方法（書いて、聞いて、触って、考えて、声に出して）で表現してきたへ結び付ける共有化・視覚化 → 最後は自分の考えを深める ・ゴールが分かるように、生徒と評価規準をそろえる ・日常生活や次時の学習への意欲と結び付ける <p>4 教師がよきモデルになる 子どもの評価は厳しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイムで始まり、チャイムで終わってそろえる ・授業で使った物を片付けて休み時間に入る <p>大事なことは 生徒が気付いて話す</p>	<p>ワーキングメモリを意識した話し方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①一文一動詞で話す <small>「教科書の7ページを開いてください」</small> ②抽象語を少なくする <small>「もうちょっと」→「10時20分まで」</small> ③注意を引き付けて簡潔に話す <small>「大事な話をします」</small> ④語調に変化を付ける（声を小さく、抑揚、スピード、間） ⑤視覚情報も活用する（目から8割入力 聴覚短期記憶の弱さを補う） ⑥静かになってから話し始める（聴く姿勢を確認する 言葉を減らす） ⑦ほめて終わる（注意が多いと、とげとげしい雰囲気になる） ⑧非言語メッセージも使う（アイコンタクト等が子どもの心を揺さぶる） ⑨最後の言葉を強調する「聞いてほしいと思います」→「聞きます」 <p>生徒の体と心に届くメッセージを</p>

【「明日から私はこれを実践します」宣言】

1年生には大きな音を苦手としている生徒がいることから、ワーキングメモリを意識した教室環境を意識したい。



- ①教室内の音を減らす。
- ②授業では、できるだけ音量を抑えたペア活動を取り入れてみたい。

50分で1本の授業完結という意識で授業を組んでいたが、10～15分のユニット制という構成を生かしたい。これまでも場を組み合わせていたつもりだが、生徒にとって50分一本勝負に思っていたのではないかと。詰め詰めの忙しい授業だった。

「今日分かった！」を表現する場づくりを心掛けていく。

机間指導はねらいをもってペンを持参し、ノートに認めを残す。

大事なところを教師が語りすぎず、生徒が生徒の言葉で話す場を多く設定する。

いつも話が脱線して長くなることがあるので、以下のことを実践します。
「話は短く、スマイルで！」

- 発言の少ない生徒に対しては、
- ①発言しない「理由」に注目し、個に応じた対応をすること。
 - ②構造的な板書を心掛けること。

分からない、できないはストレスになる。そのまま授業を進み続けるのもきっと苦痛だろうと思った。明日からの実践は、『小さな「できる」からたくさんほめる』。



とれたて直送便

【学校見学がスタート！】



年長児と小学6年生の子どもを中心に学校見学が始まります。「楽しみに待っているからね」の一言で就学先を決めた例もあるように、保護者及び子どもの不安を希望に変え、笑顔で帰ってもらえるようお願いいたします。なお、就学先として、特別支援学校や特別支援学級を考えている場合は、診断書が必要になるので早めに検査予約をしてください。